

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471300214		
法人名	社会福祉法人 若葉		
事業所名	高齢者グループホーム 潮の香		
所在地	広島県尾道市因島中庄町油屋新開4804番地		
自己評価作成日	平成31年2月7日	評価結果市町村受理日	平成31年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成31年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の下、地域との交流で、買い物をはじめ、祭りや防災訓練等の参加で、馴染の生活が継続されています。法人の他事業所との、交流も同建物なので、企画共有で幅広い活動ができ、人的協力も得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周囲に小学校や畑、スーパーマーケットがあり、自然豊かでなおかつ利便性にも優れている。「地域社会で普通に生活する」という目標に向けて、避難訓練・祭り・運動会などの地域行事に、職員が利用者と共に積極的に参加し、地域と協力体制をとっている。運営推進会議は年間計画を立てて案内し、家族交流会や事業所の祭りと同日にし、参加しやすく、多人数の参加を得ている。会議ではスライドによる行事報告や、その時の話題について話しあうなど、意見を言いやすい環境づくりをしている。日常的に利用者を選択肢を示して、意向を確認してケアをしており、利用者が意思表示をし、自らケア計画にサインしている。職員間においても、利用者ともコミュニケーションがよくとれ、明るい雰囲気です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居前の暮らしを感じていただけるような行事に参加し、地域の人とのつながりを、感じようような交流を努めています。	職員は朝の申し送り時に理念を唱和して、共有している。日々の申し送りやケア会議などで、職員が理念を基にお互いに問いかけて、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の商店で買い物、地域の理容院に行き、地域の飲食店にて食事、喫茶をし地域を散歩したりドライブしています。	地域の道路掃除やゴミステーションの清掃・祭りの神輿担ぎなどに職員が参加し、町民運動会にも利用者と共に参加している。事業所の夏祭りには地区長の協力があり、子ども太鼓の演奏、ハロウィンへ子どもたちがやってくるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催で、夏祭りを行い、区役員の協力をいただき、事業所と地域の人たちの出会いの場をもうけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員それぞれの、官民の立場を踏まえた情報をいただき、サービス向上に活かしています。	会議は年6回、計画的に案内し、区長・民生委員・包括・利用者・家族などが参加、実施している。内2回はスライドで行事や生活の様子を知らせ、夏まつり・交流会・試食会・忘年会など同一日に実施している。参加者から意見が活発に出され、身体拘束についての具体的な話し合いなどがなされた。	会議について市職員へも案内し、参加を得て、事業所の取り組みを伝え、より協力関係を築かれるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新、請求等に訪問しています。、疑問は、問い合わせています。包括支援センターには、助言をいただくことも多いです。	介護保険課とはケアマネが窓口となって連携している。他の事務関係の事柄については、本部が市担当者で連絡を取り合っている。研修や感染情報等について、包括支援センターより情報提供があり、参加する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎回のケア会議で、全員で身体拘束をしないか、確認しています。玄関施錠は、夜間のみ防犯上行っています。	ヒヤリハット・事故報告等を申し送りで共有し、ケア会議で検討し、身体拘束をしないケアを実践している。買い物に無断外出する利用者に対し、1階のデイケアの職員の協力も得ながら、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、年度初めに、講習があり、内容を、共有しています。毎月2回の会議で、全員で話し合い、ふりかえりを行って防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人での研修を受けて、全員で共有しています。個々の必要性については、ご家族で活用されていることもあり、支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書に沿って、説明しています。疑問や質問には、丁寧に応答しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年度内に6回ほどご家族と利用者の交流を設けている。その際意見要望を伺いそれ以外にも、いつでも意見をいただくようにして、運営に反映させています。	年6回の交流会で、試食会、おやつを作る会、忘年会など行い、利用者・家族の思いや意見などが活発に出される。家族訪問時にも聴き、家族と共に外出が実現するなど、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の会議で、職員が遠慮なく意見要望を発言し、事業所の上司を通して代表者に意見、提案を繋げて反映されています。	毎月のケア会議・職員会議で、職員の意見や提案が多く出され、受講希望の研修に参加する事や、玄関が暗いと意見から調光照明に変更するなど反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議で事業所上司が、職員の思いを把握して、代表者と共に、各自の職場環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講を奨励しています。本人の希望で受講することも、法人からの勧めもあります。毎年行われる法人研究発表もあり、意欲的に日常支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に大小の、集まりがあり、それぞれの研修等に参加して、自施設に活かすようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で、本人の言葉、しぐさ、行動のあらゆることをしっかり観察し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い、家族の思いを受け入れ、利用者のため信頼、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とよく話し合い、何を必要としているか、提供できる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを、できる形で続けていく、自分のことだけでなく、他の人のためになることで、本人の喜びにつなげ良い関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告をしています。定期的に交流会を催し、外出、外泊の家族との交流を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の主治医を継続、なじみの理美容院等利用、知人の訪問歓迎など、入居までの暮らしの継続の支援に努めています。	家族や知人の訪問時には、湯茶を接待して居室でゆっくりしてもらっている。馴染みの理美容院へ送迎したり、近くのスーパーでの買い物を見守る、入居前から行っていた短歌の会へ親戚の人と出かけるなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに過ごす時を作り、楽しく過ごせるように支援しています。意思疎通困難な場合は、職員が支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、いつまでも、相談や支援に努めることを伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしから、話し合い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。困難な場合、本人に寄り添った支援を努めています。	日々の関わりの中で話を聴き、時には選択肢形式で問いかけるなど、思いを表出しやすい工夫し、意向や希望の把握に努めている。また利用者本人の視点に立ち、気づいた事は職員間で共有している。把握した内容は早期に対応し、本人に寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族からの話を聞き、入居後も、本人からの情報を得て、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が情報を話し合い、連絡帳等で伝えあって、一人ひとりの現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の会議で職員が話し合い、本人・ご家族からの要望等持ち寄り、それぞれの意見や、アイデアを反映した、介護計画を作成しています。	利用者・家族の要望を把握し、個性のある介護計画を作成している。毎月のケア会議で各利用者について話し合い、3カ月毎にモニタリング、半年毎に介護計画の見直し、必要があればその都度カンファレンスを行なっている。計画は本人・家族に説明後実践し、納得のいくものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録して、月2回の会議で、介護計画の実践にあたっての、あらたな気づきや工夫を、計画見直しに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の同建物事業所との連携を得て、デイサービスを受けたり、幅広い活動に参加する柔軟な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、なじみの人たちとの触れ合いを継続していけるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一に、入居時の主治医を継続したり、新たなかかりつけ医の下で事業所との関係を築き、適切な医療が受けられるように支援しています。	受診は希望のかかりつけ医とし、家族または職員が同行し支援している。協力医による往診は月2回ある。夜間の体調変化時にも対応できるよう連絡体制ができています。また歯科医の往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職、相互に、情報や気づきを伝えあい、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	島内の総合病院とのネットワークで、入院中も、退院後も、細やかな情報交換ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に自施設は医師、看護師常駐でないことを説明し、契約時に確認、その後、方針変更も視野に、かかりつけ医との協力体制に取り組んでいます。	入居時に事業所の方針を説明している。重度化に伴い、家族・本人の意向を踏まえ、家族には事業所でできること・できないことを説明し、十分に話し合いを行っている。それを書面化し、主治医との協力体制のもと随時意思を確認しながら、必要な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時のマニュアルを、全員で、確認しあい、定期的に、会議で、話し合っている。マニュアルの見直し確認もおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回の避難訓練を実施、地域での災害訓練に参加、運営推進会議では、協力体制を築くため働きかけを続けています。	法人内で年2回、昼・夜の想定で利用者と共に避難訓練を実施している。消防署の立会いがあり、火災発生時の避難救助方法の確認や助言をもらっている。年1回地域の防災訓練へも参加し、事業所がある法人の建物が地域の避難所となっているので、災害時の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ち、職員からも利用者間でも、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応に努めています。	年長者として敬意を払い苗字で呼名し、利用者の反応も良い。本人の気持ちを考慮し、動作の前には必ず声かけをし、援助が必要であれば、まず自身では出来ない部分を援助し、それから自立に導く等、目立たずさりげない、プライバシーを損ねない、言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望を叶える、入浴有無、行事の参加等、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々大まかな、決まりはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを大切に、言葉かけ、見守り介助と個別な支援を行い身だしなみやおしゃれをするよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立リクエストを受けたり旬の食べ物、季節行事を大切に食事を提供しています。準備は、豆の筋やもやしのひげ根を取ってもらい片付けでは、お盆をふかれます。	季節感のある食材を取り入れ、時に栽培した野菜や果物を利用者が収穫し、下処理する等、食事を楽しむ支援をしている。職員と同じテーブルを囲み楽しい雰囲気をつくっている。誕生日会には数種類のケーキから好みのものを選ぶよう、利用者の意思を引き出す支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、嗜好に合わせて、献立、食事形態、量、食器、等変化あり、それぞれ見守り、介助をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを、言葉かけしたり、介助しています。毎週歯科医往診があり、定期的に口腔ケアを受けたり、必要に応じて、治療を受けられる体制があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排せつパターンによる言葉かけ、介助を行っています。自立されている人へも、見守りを行なっています。	排泄表を確認しながら声掛けをして、昼間は全員トイレで排泄をし、夜間は場合によりポータブルトイレやオムツを使用している。利用者の状況に応じて声かけ・見守り・介助等個別に対応している。排泄物の観察により食事への配慮・水分摂取に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物による工夫、繊維の多い食べ物、水分摂取を働きかけています。廊下往復の運動の見守りも行い、かかりつけ医に相談して、薬の服用も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自の希望、タイミングを大切にしています。時に希望に合わせられないときには、しっかり説明して了解を得ています。	基本3日毎、失禁等あればその都度入浴している。寒くないよう室温に留意し、入浴剤の使用や職員との会話により入浴を楽しむ支援をしている。入浴拒否や同性希望の時は、入浴日を調整したり、介助者が変わるなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を、清潔に、なじみの状態で休んでいただいています。夜間、昼間と、居室では自由に眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬について理解して、服薬支援しています。症状の変化による服薬変更も医師の指示、看護師のもと確認して支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換にテラスを散歩したり、歌を歌って、楽しんでもらっています。人によっては家族の協力を得ながら、本人の楽しみや、習慣の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ希望に沿うよう待機しています。法人同建物内の他事業所の協力、家族の協力を得、支援をすることもあります。	テラスでの日光浴や事業所周囲の散歩を日常的に行っている。定期的に通院や短歌の会に出かける人もある。春には花見や食事など毎日のようにドライブに出かけ、時には法人内の他事業所の職員の協力や家族の同行がある。盆・正月に家族と共に外出泊もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の希望で、お金を所持している人もいます。管理の支援、使えるように支援することもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申出により電話したい場合、支援しています。電話してほしいとの希望をかなえることもあります。手紙等につきましても同様で、家族の協力もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アロマや空気清浄、季節によって加湿等施しています。利用者の動線に支障ない、快適空間づくりを心がけています。	リビングにはお雛様や生花や作品が飾られ、めだかを飼育するなど季節感がある。大きなテレビが設置され映像を見ながら皆で一緒に体操をしている。明るく広い空間で一目で見渡すことが出来るつくりとなっている。広いテラスでは利用者が日光浴や外気浴を行い、菜園で野菜やいちごなどを収穫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子、歩行器押し車使用の、利用者が増えたので、それぞれの、動きや状態に合わせて、話し合ったり、一人で過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居時持参された家具等を、家族と、気持ちよく過ごせるようにされています。体調の変化によって、新たな工夫をしたところもあります。	居室には寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者らしい居心地良さがあり、かつ配置は安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共有空間とも、安全、快適な空間であるように、洗面トイレ、リビングを判別でき、エアコン使用、家具の配置に留意して、自立した生活が送れるように工夫しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援について	本人の「自分で選びたい」という気持ちを大切にするために、道中の安全の確保と見守りを行い、外出を支援する	潮の香の職員では支援体制が取れない場合は、法人内の他の事業所の職員の協力を得て外出を支援する。また、ご家族にも協力して頂きながら本人の希望を支援する	12ヶ月
2	4	運営推進会議を活かした取り組みについて	会議は年6回、区長、民生委員、地域住民、包括、利用者、家族などに参加してもらっているが、市との協力関係も築き、多様な意見をホームの運営やサービスに反映する	外部評価で頂いた助言に従い、今後は市の職員の方にも運営推進会議に参加していただけるように依頼していく	12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()